

# 第8回 子どもの 健康・生活 実態調査



## 令和4年度 報告書 【概要版】

足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのためにはまず、できる限り正確に子どもの健康と生活の実態を把握することが重要と考え、本調査を実施してまいりました。

今回は、小学1年生から継続調査をしてきた子どもたちが、中学2年生となった節目の回です。長年に渡り、本調査にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

この8年間の成果を活かし、引き続き子ども・若者への支援・育成に注力してまいります。

足立区長 近藤やよい  
足立区教育委員会教育長 大山日出夫

### 調査の概要

- ◆調査対象：区立の中学校に在籍する2年生全員 4,396名（35校）
  - ◆調査時期：令和4年10月
  - ◆実施方法：無記名アンケート方式により、区が学校を通じて質問票を配付・回収
  - ◆回答状況：有効回答 3,233名（有効回答率 73.5%）
- ※第6回調査（令和2年度小6時に実施）では対象者 5,355人であったことから、959人（18%）は、区立中学以外に進学したと考えられる。

### 今回の調査結果・8年間の成果

- 男子は肥満傾向、女子は全国同程度に改善  
令和4年度の中学2年生は、男子はやや肥満傾向にあるものの、女子は全国と同程度でした（P2グラフ①）。
- 食習慣、むし歯は良い結果  
年齢が上がるにつれて、食事を野菜から食べる「ベジ・ファースト」を実践している割合は増加しています（P2グラフ④）。また、小学6年生の時と比較して、むし歯がある子どもの割合は中学2年生になっても増加していません（P2グラフ②）。
- ひとりで簡単な朝食がつくれるは前回より増加  
ひとりで簡単な朝食がつくれる子どもの割合は約8割で、令和2年度の中学2年生と比較して1.8ポイント増加しています（P3グラフ⑤）。
- 運動習慣は維持・読書習慣は増加  
令和2年度の中学2年生と比べると、運動していない子どもの割合は同程度で、コロナ禍の中でも増加傾向は見られません。また、月に4冊以上読書をする子どもの割合は2.1ポイント増えています（P3グラフ⑥⑦）。

**👧子どもに直接届ける対策の継続で成果**  
区では、子どもの頃からの望ましい生活習慣の定着が将来の健康につながると考え、小学1年生の頃から「ベジ・ファースト」や食後の歯磨き指導等に取り組んできました。その結果、中学2年生になった子どもたちの野菜から食べる割合は約3倍増、乳歯が生え変わる年齢になってもむし歯のない割合は高止まりする結果が出ています。

**👨健康に生き抜く実践力で夢や希望を実現**  
基本的な生活習慣は、家庭・学校・地域の関わり合いの中で育まれます。今後も区は各場面において、子どもたちが経験や体験を積む機会の充実に努めてまいります。また、将来の夢や希望を実現するための土台は「健康」です。好ましい生活習慣を自ら選択して、健康に生き抜く力を身につけられるよう、「未来へつなぐあだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」を一層充実させてまいります。

## 子どもの健康・生活の状況（調査項目の一部抜粋）

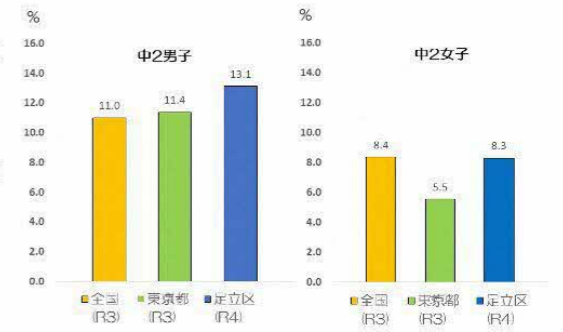
足立区立中学校に在籍する2年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。平成28年度・30年度・令和2年度の結果と比較を行っています。ここでは代表的な項目についてのみ記載しています。詳細は、足立区公式ホームページをご覧ください。（令和5年度掲載予定）

※各グラフの数字は、パーセンテージです。

### 健康について ※肥満傾向は東京都・全国の中2と比較 ※むし歯の本数は同じ集団の小6時等と比較

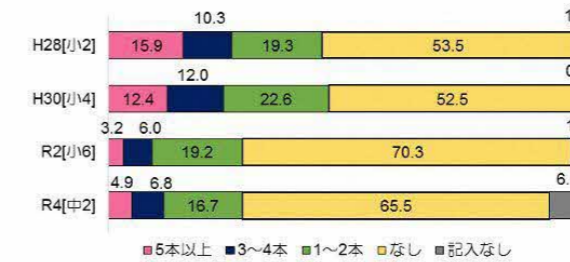
#### 【肥満傾向】

① 令和4年度の肥満傾向の子どもの割合は、男子は13.1%で、令和3年度の全国と東京都のデータ（文部科学省による最新の統計データ）と比較して、やや高め傾向です。女子は8.3%で、東京都より高いものの全国と比較すると同程度です。

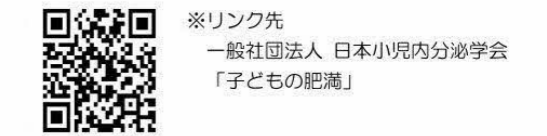


#### 【むし歯の本数】

② むし歯が1本もない子どもの割合は65.5%で、小6から中2にかけて、むし歯のない割合は高止まりしています。



🌟 お子さまの肥満度を調べてみましょう。



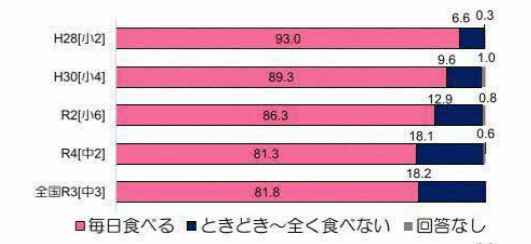
※リンク先  
一般社団法人 日本小児内分泌学会  
「子どもの肥満」

▲詳しくは、上記サイトの男子用 女子用

### 食生活について ※同じ集団の小6時等と比較

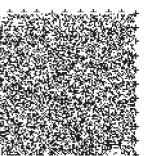
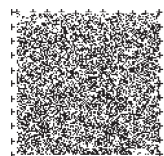
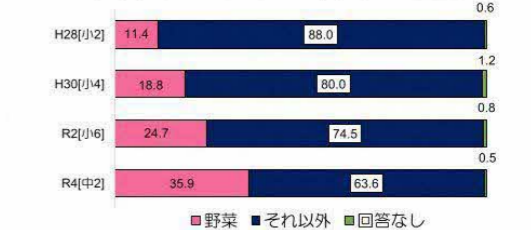
#### 【朝食習慣】

③ 朝食を毎日食べている子どもの割合は81.3%と年齢が上がるにつれて減っています。全国（文部科学省による最新の統計データ・中3）と比較すると、同程度です。



#### 【食べる順番】

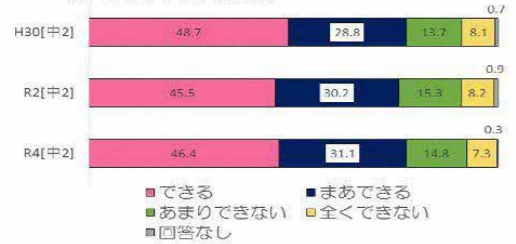
④ 食事を野菜から食べている（ベジ・ファースト）子どもの割合は35.9%で、年齢が上がるにつれて増えています。



家庭生活について ※過年度の中2と比較

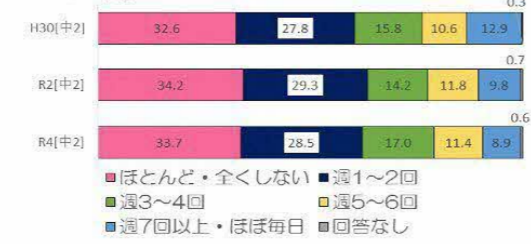
■ひとりで簡単な朝食がとれる

⑤ ひとりで簡単な朝食がとれる子どもの割合は77.5%で、令和2年度(中2)より1.8ポイント増えています。



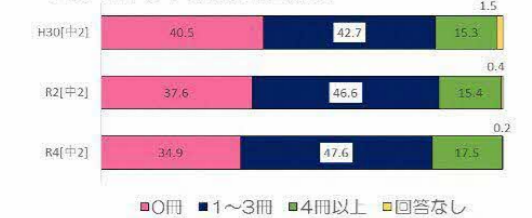
■運動

⑥ 1週間でほとんど・全く運動しない子どもの割合は33.7%で、コロナ禍においても増加しませんでした。



■読書

⑦ 最近1か月で4冊以上本を読んでいる子どもの割合は17.5%で、令和2年度(中2)より2.1ポイント増えています。



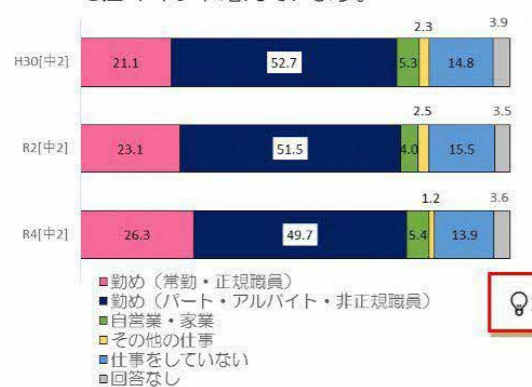
■テレビ・動画

⑧ テレビ・動画を1日4時間以上視聴している子どもの割合は18.7%で、令和2年度(中2)より1.6ポイント増えています。



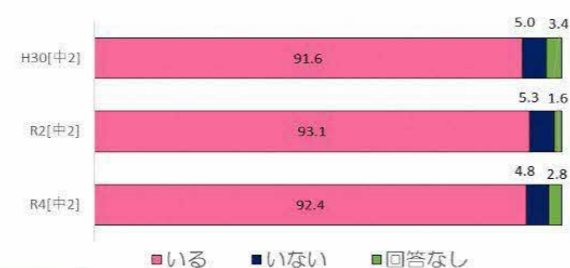
■母親の就業状況

⑨ 母親が常勤・正規職員として働いている世帯の割合は26.3%で、令和2年度(中2)より3.2ポイント増えています。



■保護者の相談相手の有無

⑩ 保護者に相談相手がない割合は4.8%で、コロナ禍においても変化はありませんでした。



💡ポイント

これまでの調査結果から、保護者が困ったときに相談できる相手がいる世帯は、子どもの健康面(予防接種の接種率や自己肯定感等)に良い影響を与えることが明らかとなっています。

非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

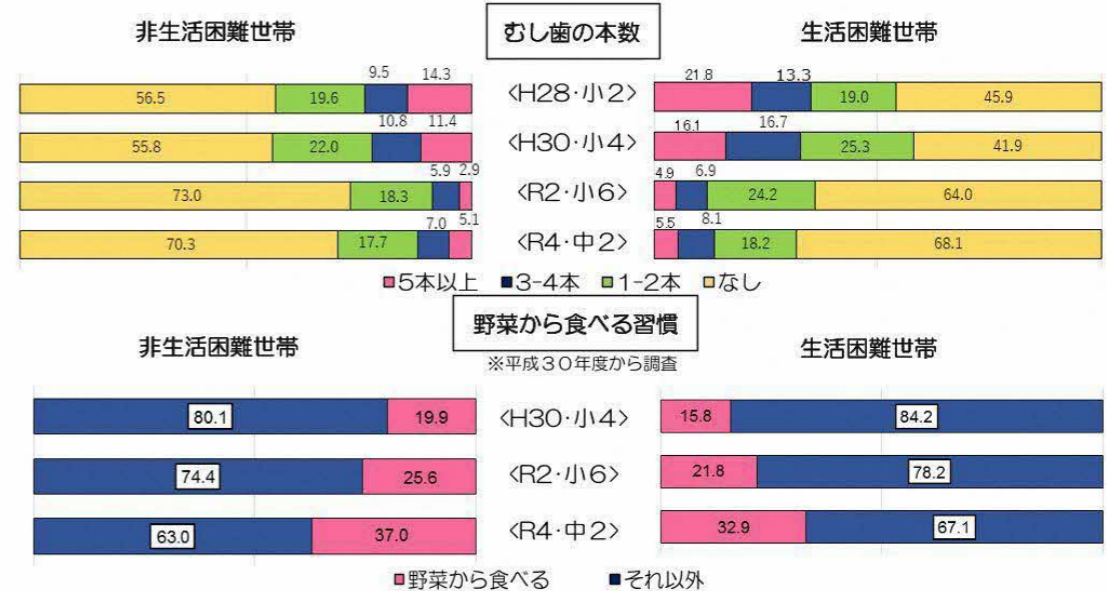
本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、家庭環境全体で把握すべきであると考えています。令和4年度の「生活困難」世帯\*の該当件数は、702世帯(21.7%)で、令和2年度(小6)の19.5%から、2.2ポイント増加しました。

\*「生活困難」とは、以下のA・B・Cのいずれか一つでも該当する場合と定義しています。  
 A 世帯年収300万円未満の世帯 ※年収は令和3年の状況  
 B 生活必需品の非所有世帯(子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど)  
 C 水道・ガスなどのライフラインの支払い困難経験世帯

非生活困難世帯と生活困難世帯の比較 ※同じ集団の小6時等と比較

生活困難が、子どもの健康・生活にどの程度関連があるかを調べるため、非生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。むし歯が1本もない子どもの割合は、非生活困難世帯が70.3%、生活困難世帯が68.1%と、調査当初と比較してその差が大幅に改善

されました。また、食事を野菜から食べている(ベジ・ファースト)子どもの割合も、非生活困難世帯が37.0%、生活困難世帯が32.9%と、それぞれ増えています。



ご利用ください

「未来へつなぐあだちプロジェクト」では、本調査の実施以外にも、以下の活動等に取り組んでいます。

★子ども食堂 MAP 子どもの中心とした みんなの食と居場所

★応援アプリ ひとり親家庭の暮らしに役立つ 情報をお届け 足立区 豆の木 で検索!

★「早うま!かんたん ベジレシビ」 管理栄養士が考案した かんたんベジレシビを掲載

■窓口のご案内

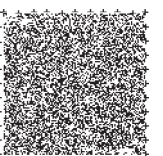
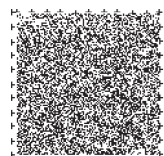
子どものことや心や身体のこと等でお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。

- 子ども・子育てについて悩みがあるとき
  - <子ども支援センターげんき>
    - 子育てに関すること 03-3852-3535
    - 発達に関すること 03-5681-0134
    - 不登校に関すること 03-3852-2872
  - <くらしとしごとの相談センター> 03-3880-5705
- 生活や仕事に悩みがあるとき
  - 東部保健センター 03-3606-4171
- なんとなく心や身体が不調なとき
  - 江北保健センター 03-3896-4011
  - 千住保健センター 03-3888-4278
  - 竹の塚保健センター 03-3855-5093
  - 中央本町地域・保健総合支援課 03-3880-5352
- パートナーからの暴力や嫌がらせ 性的指向及び性自認に関する悩み
  - <男女参画プラザ>
    - 女性・男性DV・LGBT 相談(予約制) 03-3880-5222

◆詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。

※令和4年度報告書本編は、令和5年度掲載予定

発行: 足立区・足立区教育委員会 (令和5年3月) ※令和5年9月一部訂正  
 編集: 足立区衛生部こころからの健康づくり課  
 国立大学法人東京医科歯科大学 大学院歯学部総合研究科 国際健康推進医学分野  
 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 研究所 社会医学研究部  
 問合せ: 03-3880-5433 (足立区衛生部こころからの健康づくり課)





令和5年度 報告書 【概要版】

足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのためには、できる限り正確に子どもの健康と生活の実態を把握することが重要と考え本調査を実施してまいりました。

平成27年度にスタートした本調査は、当初計画していた9年間の調査最終年を迎えました。ご協力頂いてきた全ての皆様に感謝申し上げますとともに、これまでの調査結果を踏まえ、子どもたちのレジリエンスの向上や、健康増進に効果が見込まれる具体的な支援策の充実に、尚一層注力して参ります。

足立区長 近藤 やよい  
足立区教育委員会 教育長 大山 日出夫

調査の概要

- ◇ 調査対象：区立の小学校に在籍する1年生全員 4,584名（67校）
- ◇ 調査時期：令和5年10月
- ◇ 実施方法：無記名アンケート方式により、区が学校を通じて質問票を配付・回収
- ◇ 回答状況：有効回答3,460名（有効回答率75.5%） ※回答者の約90%は子どもの母親

調査から見てきたこと

■ 男子は肥満傾向が減少・女子は増加

令和5年度の小学1年生は、男子は令和3年度より肥満傾向が減少し全国平均を下回りましたが、女子は増加傾向にあります。

■ むし歯のない子ども、野菜から食べる子どもは年々増加

むし歯が1本もない子どもの割合は年々増えています。食事を野菜から食べる（ベジ・ファースト）子どもの割合も着実に増加しています。

■ 運動・読書習慣に課題

運動・読書習慣のない子どもは年々増えている一方、今回、月に4冊以上本を読んでいる子どもも増加しました。

■ テレビ・動画の視聴時間は変化なし、就寝時間は改善

テレビ・動画を一日1時間以上視聴している子どもは令和3年度と比較して同程度でした。午後10時以前に就寝している子どもは増加しました。

💡 子どもに直接届ける対策の成果

全ての子どもが受診できる「あだちっ子歯科健診」の実施や、保育園や幼稚園、学校給食等での「ベジ・ファースト」の実践により、小学1年生のむし歯のない児童の割合や、野菜から食べる児童の割合は着実に高くなっています。家庭、学校、地域社会が協力して子どもたちに直接働きかけ、成果を継続していくことが必要です。

子どもの健康を守り育てるために

9年間の調査から、子どもたちの健康に重要なエッセンスを得ることができました。

● 子どものレジリエンス（逆境を乗り越える力）向上のために

子どもが5つの好ましい生活習慣（一口目は野菜から食べる・毎日朝ご飯を食べる・決まった時間に寝る・適度な運動を行う・歯みがきを習慣化する）を身につけ、地域活動に積極的に

参加して、経験・体験を積み、ロールモデルとなる大人と関わることでレジリエンスを高めるためには重要です。

● 保護者に相談相手がいることが大切

保護者が困ったときに相談する相手がいると、子どもの健康面に良い影響をあたえることが明らかになっており、生活困難の影響も軽減できる可能性があります。

子どもの健康・生活の状況（調査項目の一部抜粋）

足立区立小学校に在籍する1年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。平成27年度から隔年（平成27年度・平成29年度・令和元年度・令和3年度）で調査した結果と比較を行っています。

ここでは、代表的な項目についてのみ記載しています。詳細は、足立区公式ホームページをご覧ください。足立区 子ども健康調査 🔍 検索  
(令和6年4月下旬以降に掲載予定)

※各グラフは、令和5年度と過去の小学1年生を比較しています。数字は、パーセンテージです。

小学校入学前施設の状況

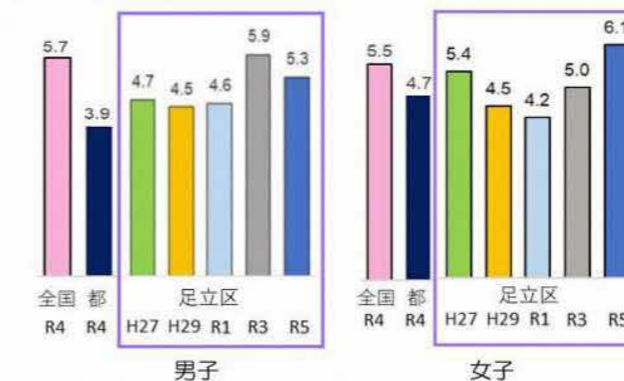
入学前に通っていた施設は調査当初と比べると保育所の割合が増加しており、令和5年度の小学1年生では全体の約半分となっています。



健康について

【肥満傾向】

令和5年度の男子は肥満傾向が全国と比較して低くなりましたが、女子は1.1ポイント高くなりました。調査当初からみると、男子は令和3年度が一番高くなっています。女子は令和元年度を機に増加傾向にあります。



【むし歯】

むし歯が1本もない子どもの割合は前回より2.3ポイント増えました。調査当初から比べるとその割合は14.2ポイントと大幅に増加しており、むし歯の本数も着実に減少しています。



食生活について

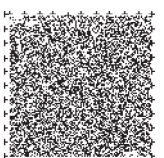
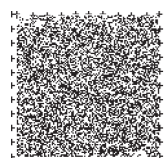
【朝食】

朝食を毎日食べている子どもの割合は92.9%で、前回より0.8ポイント減りましたが、調査当初から朝食を食べる子どもは高い割合を維持しています。



【食べる順番】

食事を野菜から食べている（ベジ・ファースト）子どもの割合は27.2%で、2.5ポイント増えました。調査当初では約12%でしたが、現在は約27%まで増加してきました。



## 家庭生活について

### 【読書】

最近1か月で4冊以上本を読んでいる子どもの割合は49.4%で、0.5ポイント増えましたが、調査当初から比べると減少傾向にあります。



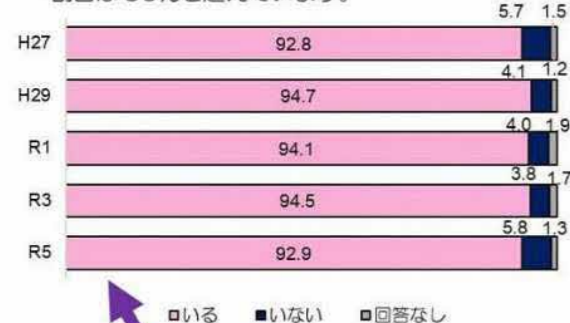
### 【テレビ・動画】

テレビ・動画の視聴が1時間未満・見ない子どもの割合は21.4%でした。調査当初から比べて同程度の割合を保っています。



### 【保護者の相談相手の有無】

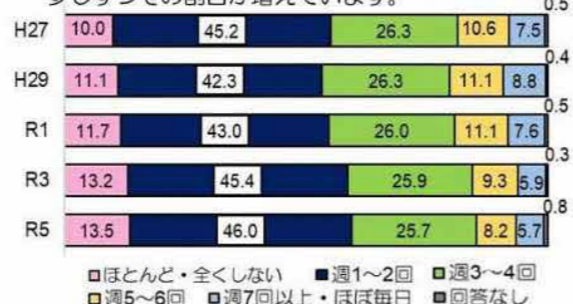
保護者に相談相手がいる割合は前回より1.6ポイント減りましたが、調査期間を通して相談相手がいる割合は90%を超えています。



これまでの調査結果から、保護者が困ったときに相談できる相手がいる世帯は、子どもの健康面（予防接種の受診率や自己肯定感等）に良い影響を与えることが明らかとなっています。

### 【運動】

1週間のうち、ほとんど・全く運動しない子どもの割合は13.5%でした。調査当初から比べて少しずつその割合が増えています。



### 【平日の就寝時間】

午後10時より前に就寝している子どもの割合は81.9%でした。調査当初から約80%以上の子どもは午後10時前に就寝しています。



## 「心理的な虐待（子どもの心を傷つける不適切な言動）」がもたらす影響

子どもに対する虐待には、①「身体的な虐待」②「ネグレクト（育児放棄）」③「心理的な虐待」があります。子どもの成長に対して、「傷つくことを繰り返し言う」といった「ことばによる心理的な暴力」が悪影響を及ぼすことが分かってきました。「心理的な虐待」が「他人を思いやる行動の低下」などの問題行動に大きく関わってくる事を、保護者だけではなく、多くの大人に知ってもらうことが大切です。

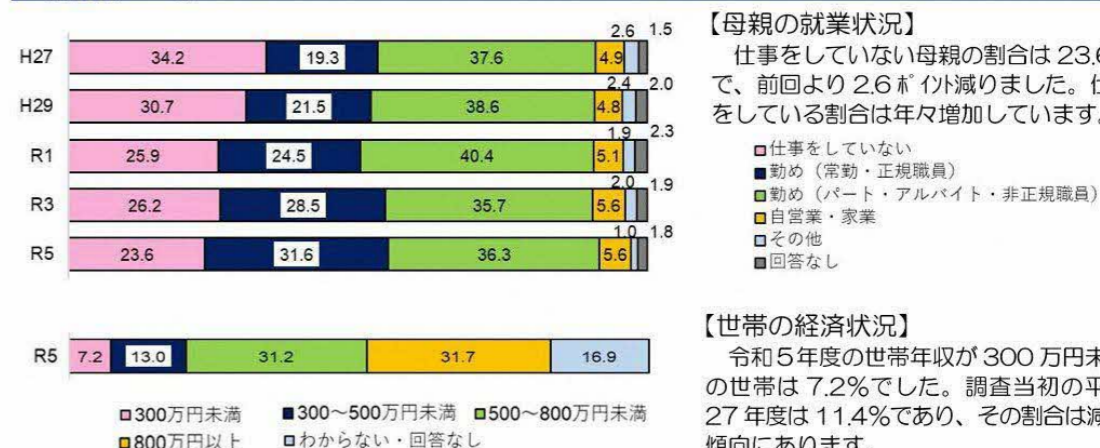


（論文）Isumi A, Doi S, Ochi M, Kato T, Fujiwara T. Am J Epidemiol. 2022 Mar 24;191(4):655-664.

## 保護者の生活

### 【母親の就業状況】

仕事をしていない母親の割合は23.6%で、前回より2.6ポイント減りました。仕事をしている割合は年々増加しています。



### 【世帯の経済状況】

令和5年度の世帯年収が300万円未満の世帯は7.2%でした。調査当初の平成27年度は11.4%であり、その割合は減少傾向にあります。

## 非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

生活困難が、子どもの健康・生活にどの程度関連があるかを調べるため、非生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。

むし歯が1本もない子どもの割合は、非生活困難世帯、生活困難世帯ともに改善されています。

### \*「生活困難」とは、

- 以下のA・B・Cのいずれか一つでも該当する場合と定義しています。
- A 世帯年収300万円未満の世帯（年収は、令和5年の状況）
- B 生活必需品の非所有世帯（子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど）
- C 水道・ガスなどのライフラインの支払い困難経験世帯



## 窓口のご案内

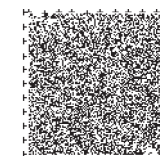
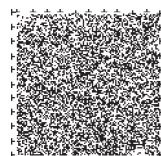
子どものことや心身のことでお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。

- **子ども・子育てについて悩みがあるとき**  
 <子ども支援センターげんき>  
 子育てに関すること 03-3852-3535  
 発達に関すること 03-5681-0134  
 不登校に関すること 03-3852-2872
- **生活や仕事、家庭の悩み、複数の困りごと、相談先がわからないとき**  
 R6. 3月までくらしとしごとの相談センター>  
 R6. 4月からく福祉まるごと相談課>  
 03-3880-5705
- **なんとなく心や体が不調なとき**  
 江北保健センター 03-3896-4011  
 ※「すこやかプラザ あだち」内にR7.1月中旬移転予定  
 千住保健センター 03-3888-4278  
 竹の塚保健センター 03-3855-5093  
 中央本町地域・保健総合支援課  
 03-3880-5352  
 東部保健センター 03-3606-4171
- **パートナーからの暴力や嫌がらせ性的指向及び性自認に関する悩み**  
 <男女参画プラザ>  
 女性DV・男性DV・LGBT  
 相談(予約制) 03-3880-5222
- **どんな相談でも**  
 <よりそいホットライン> 0120-279-338



◆詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。  
 ※令和5年度報告書本編は、令和6年4月以降に掲載予定

発行：足立区・足立区教育委員会（令和6年3月）  
 編集：足立区衛生部こころからだの健康づくり課  
 国立大学法人東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 国際健康推進医学分野  
 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部  
 問合せ：03-3880-5433（足立区衛生部こころからだの健康づくり課）





第1回（令和6年度）報告書 【概要版】 修正版（令和7年4月子ども・子育て支援対策調査特別委員会資料の修正）

足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのためには、できる限り正確に子どもの健康と生活の実態を把握することが重要と考え本調査を実施しており、昨年度に当初予定していた第1期の9年間の調査を終了しました。  
今年度からは、これまでの調査結果を踏まえ実施してきた施策等の効果を確認するとともに、コロナ禍による生活スタイルの変化がもたらした児童・生徒の生活習慣、学習習慣への影響を明らかにし、より効果的な取り組みを実施するため、第2期調査をスタートいたしました。調査結果を踏まえて、今後も子どもたちの未来につながる施策を構築してまいります。

足立区長 近藤 やよい  
足立区教育委員会 教育長 中村 明慶

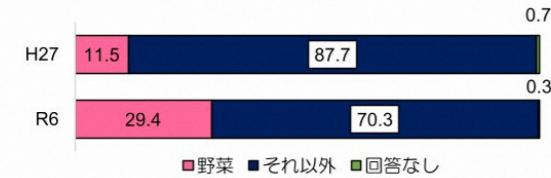
調査の概要

- ◇ 調査対象：区立の小学校に在籍する1年生の保護者 4,581名（67校）
- ◇ 調査時期：令和6年10月
- ◇ 実施方法：オンライン回答 区が学校を通じて調査案内（回答フォームへの二次元コード）を配付
- ◇ 回答状況：回答件数 2,913名（回収率63.6%） 有効回答 2,609名
- ◇ 有効回答率：89.6%（有効回答/回答件数） 57.0%（有効回答/調査対象）※ 回答者の約90%は子どもの母親

平成27年度と令和6年度の「小学1年生」を比較～こんなに大きく変わりました～

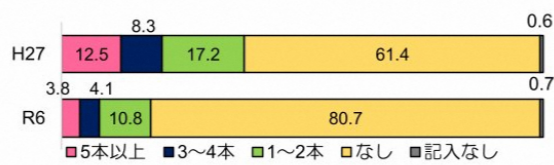
【野菜から食べる子どもは増加傾向】

食事を野菜から食べている（ベジ・ファースト）子どもの割合は29.4%で、調査当初より17.9ポイント増加しました。



【むし歯のない子どもの増加】

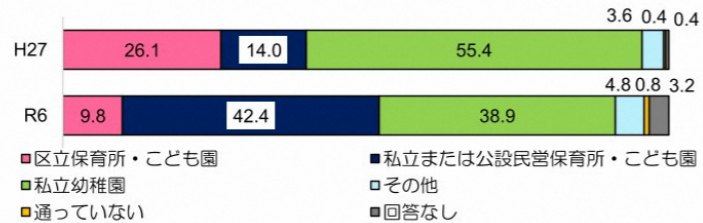
むし歯が1本もない子どもの割合は調査当初から比べると19.3ポイント増加し、現在は80%を超えています。



【小学校入学前に通っていた施設】

入学前に通っていた施設は調査当初と比べると保育所・こども園の割合が増加しています。

共働き家庭の増加に伴い保育ニーズが拡大してきた結果と言えます。



これまでの9年間で  
見えてきました

子どもの健康・レジリエンス(逆境を乗り越える力)にとって大切なこと

保護者に「困ったときに相談できる相手がいる」と子どもの健康リスクが軽減する

これまでの調査から、保護者が困ったときに相談できる相手がいると、子どもの健康面により影響をあたえることが明らかになっています。保護者が地域と繋がり、子どもたちが地域活動に積極的に参加できるような環境づくりに取り組むことが重要です。詳しくは本概要版3ページをご覧ください。

子どもが望ましい生活習慣を身につけるとレジリエンスを育てる

また、5つの望ましい生活習慣（①一口目は野菜から食べる ②毎日朝ご飯を食べる ③決まった時間に寝る ④適度な運動を行う ⑤歯磨きを習慣化する）の定着は、子どもたちの自己肯定感や自己制御能力などレジリエンスの向上に大きく影響することも分かっています。

子どもの健康・生活の状況（調査項目の一部抜粋）

足立区立小学校に在籍する1年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。  
調査開始当初の平成27年度（一部は平成29年度）と令和6年度の結果を比較しています。

ここでは代表的な項目についてのみ記載しています。詳細は、足立区公式ホームページをご覧ください。  
足立区 子どもの健康調査 🔍 検索  
(令和7年5月以降に掲載予定)

※ 各グラフは、令和6年度と過去の「小学1年生」を比較しています。数字は、パーセンテージです。

健康について

【肥満傾向】

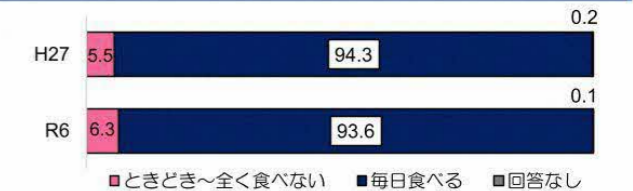
令和6年度は調査当初と比較すると、女子は0.5ポイント、男子も0.6ポイント肥満傾向が低くなりました。男子については全国と比較しても低くなっています。



食生活について

【朝食】

朝食を毎日食べている子どもの割合は93.6%で、調査当初から朝食を食べる子どもは高い割合を維持しています。



家庭生活について

【歯みがき】

一日2回以上歯みがきをしている子どもは、調査当初から7割以上を維持しています。



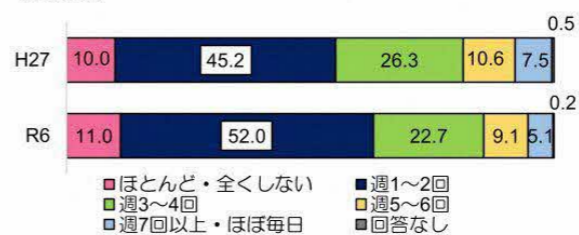
【平日の就寝時間】

調査当初と比較すると、午後10時以降に就寝している子どもが7.5ポイント増加しています。



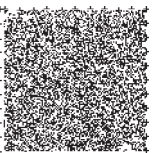
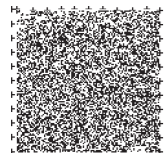
【運動】

1週間のうち、週3回以上運動する子どもは減少し、週1~2回運動する子どもが増加しています。



【テレビ・動画】

テレビ・動画の一日の視聴時間は約51%の子どもが1-2時間ですが、4時間以上視聴している子どもの割合が1.4ポイント増加しています。



## 保護者の生活について

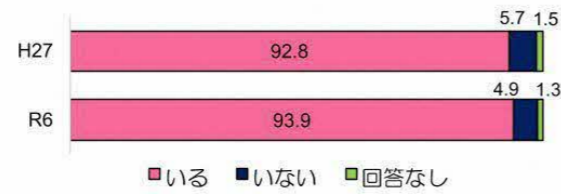
### 【保護者の相談相手の有無】

保護者に相談相手がいる割合は約94%となっています。調査当初から相談相手がいる割合は90%を超えています。

また相談できる人数は1人～2人と回答した割合が約51%となっています。

### ポイント

これまでの調査結果から、保護者が困ったときに相談できる相手がいる世帯は、子どもの健康面（予防接種の受診率や自己肯定感等）に良い影響を与えることが明らかとなっています。



### 参考

【子どもについての悩みや心配事を相談する相手の有無】

父 83.6% 母 94.2%

※対象者は小学生までの子どもを養育する世帯

(出典：令和4年度 東京都福祉保健基礎調査「東京の子供と家庭」)

### NEW

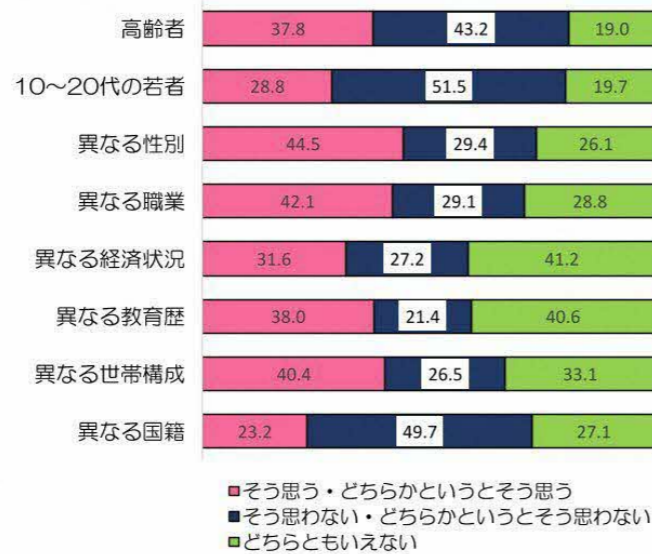
### 【普段の生活における交流の多様性】

保護者の仕事上も含めた普段の生活の中で、どのような特徴を持つ人たちと交流があるかについて調査しました。

交流の対象者は、左記の8つの特徴の人になります。

今回の調査の結果、「保護者が6つ以上の特性の人々と交流がある場合に、子どものレジリエンス（逆境を乗り越える力）が高くなる可能性がある」とことが見えてきました。

〈保護者が普段の生活で交流することが多い人〉



■ そう思う・どちらかというと思う  
■ そう思わない・どちらかというと思わない  
■ どちらともいえない

### ソーシャルキャピタルの影響

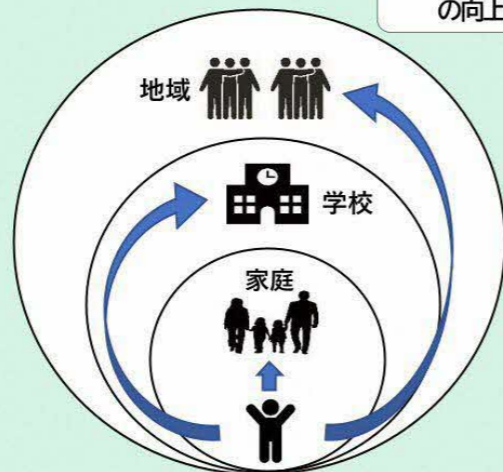
### レジリエンスの向上

これまでの調査を通して、家族との関係や社会的つながりと、子どもたちの行動（問題行動または思いやりを示す行動）との関連について分析しました。

その結果、それぞれのソーシャルキャピタルが醸成されると、子どもたちのレジリエンスを高めることにつながっていくことが分かりました。

### ソーシャルキャピタルとは

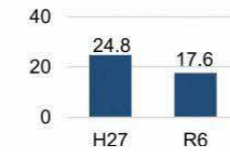
人と人との関係性や結びつきを資源として捉える考えです。人々が信頼し合って助け合うことで問題が解決され、社会全体を安定させる力となります。



## 非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

生活困難世帯の割合は7.2ポイント減少しました。

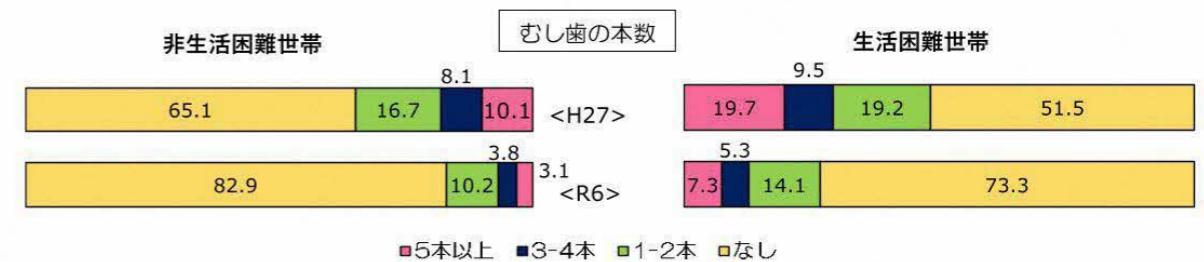
### 「生活困難」世帯の割合



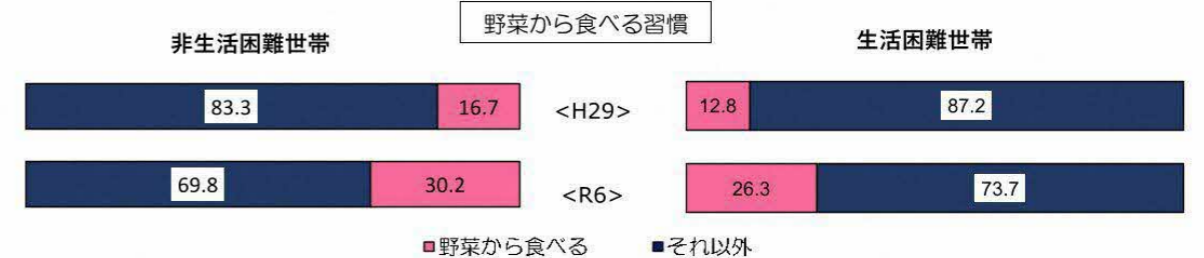
本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、家庭環境全体で把握すべきと考えており、「生活困難」世帯について、以下のA・B・Cのいずれか一つでも該当する場合と定義しています。

- A 世帯年収300万円未満の世帯（年収は、2023年の状況）
- B 生活必需品の非所有世帯（子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど）
- C 水道・ガスなどのライフラインの支払い困難経験世帯

むし歯が1本もない子どもの割合は、調査当初と比べて非生活困難世帯では17.8ポイント、生活困難世帯では21.8ポイント増加しています。



食事を野菜から食べている（ベジ・ファースト）子どもの割合は、非生活困難世帯では約30%、生活困難世帯では約26%で調査当初と比べてそれぞれ約13ポイント増加しています。



### 窓口のご案内

子どものことや心身のことでお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。

- **子ども・子育てについて悩みがあるとき**  
 <子ども支援センターげんき>  
 子育てに関すること 03-3852-3535  
 発達に関すること 03-5681-0134  
 不登校に関すること 03-3852-2872
- **生活全般の悩み・困りごとがあるとき**  
 <福祉まるごと相談課>  
 足立区役所 別館1階 03-3880-5705  
 すこやかプラザ あだち3階※ 03-5888-4571  
 ※令和7年4月21日OPEN
- **なんとなく心や体が不調なとき**  
 江北保健センター 03-3896-4011  
 (「すこやかプラザ あだち」内に令和7年4月21日移転)  
 千住保健センター 03-3888-4278  
 竹の塚保健センター 03-3855-5093  
 中央本町地域・保健総合支援課 03-3880-5352  
 東部保健センター 03-3606-4171
- **パートナーからの暴力や嫌がらせ 性的指向及び性自認に関する悩み**  
 <男女参画プラザ>  
 女性DV・男性DV・LGBT 相談(予約制) 03-3880-5222
- **どんな相談でも**  
 <よりそいホットライン> 0120-279-338

◆詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。  
 ※令和6年度報告書本編は、令和7年5月以降に掲載予定です。

発行：足立区・足立区教育委員会（令和7年3月）  
 編集：足立区衛生部こころとからだの健康づくり課  
 国立大学法人東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 公衆衛生学分野  
 問合せ：03-3880-5433（足立区衛生部こころとからだの健康づくり課）

